



AUE News



2013年12月1日

第 73 号

編集・発行

愛知教育大学広報チーム

TEL 0566-26-2738

FAX 0566-26-2500

目次

● 行事予定(12月1-15日)

● トピックス

- ・外国人留学生社会見学旅行
- ・生駒野外実習地で芋掘り・焼き芋大会
- ・秋祭 2013
- ・秋のランチタイムコンサート
- ・高圧ガス取扱のための安全講習会
- ・日高小学校児童らが食育に「しょくまるファイブ」活用で文科大臣賞受賞を学長に報告
- ・アイルランド文学と音楽の夕べ
- ・第7回科学・ものづくりフェスタ@愛教大

- ・刈谷アクアモールイルミネーション点灯式
- ・第58回東海地区国立大学文化祭
- ・第3回陶芸カフェ
- ・永年勤続者表彰式
- ・招へい教職員による講演会
- ・文化系クラブ・サークル発表会
- ・個人情報保護・情報セキュリティセミナー
- お知らせ・報告・投稿
- ・地域連携フォーラム 2013
- ・グローバル授業「ケニアの生活と文化」
- ・第3回リベラル・アーツ Edu セミナー
- ・催しもの案内

行事予定(12/1-15)

- 2日(月) 教務企画委員会 (16:40～ 第二会議室)
学生支援委員会 (16:40～ 第五会議室)
- 3日(火) 役員部局長会議 (13:00～ 第五会議室)
- 4日(水) 情報システム委員会 (11:00～ 第五会議室)
- 10日(火) 役員会 (13:00～ 第二会議室)
- 11日(水) 代議員会 (13:30～ 第五会議室)
教育研究評議会 (代議員会終了後、第五会議室)

トピックス

外国人留学生社会見学旅行(11/16)

本学国際交流センターでは、外国人留学生のための社会見学旅行を11月16日(土)に実施しました。これは、同センターと学生ボランティアが共同で企画・立案し「日本の文化の見学と体験」「本学に在籍する日本人学生と外国人留学生の交流促進」を目的に毎年実施しているものです。



今回は、岐阜県郡上八幡への日帰り旅行で、外国人留学生22人、日本人学生ボランティア(国際交流会館チューター含む)11人が参加し、宮川秀俊国際交流センター長と教育創造開発機構運営課職員6人も同行しました。また、「協定校からの教職員招へいプログラム」で招へい中の、中国・湖南師範大学の劉徳華教授と、台湾・台北教育大学事務職員の陳怡君さんも参加しました。

連日の寒さが少し和らぎ、絶好の行楽日和となった中、午前9時に観光バスで大学を出発。車中では学生企画のレクリエーションが行われ、大いに盛り上がりました。郡上八幡の城下町

に到着後は、事前に決めた班ごとに自由散策を行い、郡上八幡城に登城するグループ、城下町を散策してゆっくりと地元名物料理の「鶏ちゃん」を食べるグループというように、それぞれ散策を楽しんでいました。



続いて、近くの大滝鍾乳洞に向かい、自然が作り出す神秘的な風景を見学しました。留学生たちは、洞穴内の激しい登り下りの連続に最初は戸惑っていましたが、すぐに慣れ、さまざまな場所で写真撮影をして、所々で笑い声が響き渡っていました。



最後に、郡上八幡が誇る「食品サンプル」の制作を体験しました。今回は、天ぷらのサンプルを作成。食品サンプルを初めて見る留学生たちはもちろん、見慣れている日本人ボランティア学生までもが興奮しながらサンプル制作に熱中していました。

今回の旅行で留学生と日本人学生は互いに積極的に交流し、また日本の歴史や伝統文化にも関心を持ったようで、双方にとって有意義な旅行になりました。



(教育創造開発機構運営課 国際交流担当 伊藤英作)

生駒野外実習地で芋掘り・焼き芋大会(11/16)

11月16日(土)午前10時から豊田市の本学生駒野外実習地で、「芋掘り・焼き芋大会」が行われました。同実習地は開設して3年目、本学キャンパス内の自然観察実習園と合わせて大学の環境教育・農業教育施設として運用され、米やジャガイモ、タマネギ等の生産と、栽培学習の授業や近隣保育園や障害者施設も含めた芋掘り活動も行っています。さらに、雑木林を利用した野外活動・環境教育への活用の検討も進められています。



恒例となった芋掘り・焼芋大会は、学内の教職員とその家族・学生も含めて20人ほどの参加があり、合わせて、日頃見守っていただいている近隣住民の方にも呼び掛けて10人ほどの参加がありました。

始めに、自然観察園運営委員会小委員会委員長の太田(技術教育)からの挨拶で実習地の状況報告と栽培管理をお願いしている長友さん、稲垣さんのお世話によりサツマイモも育てられてきたことの紹介等がありました。また、授業で実習

地での植付けや除草を行った技術専攻4年生の翁田君からも当日の芋づる切りの作業などが紹介されました。その後、長友さんから掘り方の説明があり、参加者は思い思いの畝に鍬やスコップを振るって、次々に大きな芋が掘り上げられました。

そして、昼前には、雑木林の剪定された樹木の枝等を用いたたき火の炭の中で美味しい焼芋ができあがって、みんなで熱々の焼芋を食べながら収穫の喜びとおいしさを分かち合うことができました。(技術教育講座 教授 太田弘一)



秋祭 2013(11/16, 17)

「DASH～秋を駆け抜けろ～」をテーマに「秋祭2013」が11月16日(土)、17日(日)、本学で開催されました。スポーツ祭として、ソフトボール、ハンドボールが行われ、学生たちの思い切ったプレーが見られました。2日目はソフトボールおよびミニサッカーが行われました。第一体育館、

第二体育館を会場にしたバスケットボール、バドミントン、バレーボールの屋内球技大会でも、学生たちは周囲の熱い声援に応え、ハッスルプレーで気持ちの良い汗を流していました。



附属図書館南側の特設ステージでは、音楽演奏を中心にダンスや合気道部の組み手など、昨年より多い 27 団体(ダンスサークルの団体は附属屋2階で実施)の学生が日頃の練習成果を披露しました。特に外の寒さにもかかわらず、ダンスドリルのチアダンスや合気道部の演武では寒さも忘れさせるほどの熱演でした。1日目の夕暮れには夜祭企画として、お



笑いコンテストやステージの上演団体の中から選出されたアンコール演奏、最後にビンゴゲーム大会を行ない、参加者の活気で溢れていました。

また、附属図書館前広場ではフリスビー投げ等のミニゲーム、第一共通棟西側や南側の通りでは、たこ焼き、お団子、カステラの模擬店、第一共通棟1階の教室ではアクセサリ雑貨の小物販売、マジックショー、寄席、写真展、アカペラ演奏の企画が展開されました。



今年は2日間とも好天に恵まれ、約1,000人の来場者がありました。朝方は建物内でもとても寒く感じましたが、暖くなるにつれ学生だけでなく、地域の家族連れも多く来学して、盛況のうちに秋祭を終了しました。(学生支援課 課外教育担当係長 亀山重人)

秋のランチタイムコンサート(11/20)

音楽科の学生によるランチタイムコンサートが11月20日(水)午後零時30分から、附属図書館アイ♥スペースで開催され、学生や教職員、約70人が聴き入りました。

季節毎に行われる同コンサートに、秋は音楽専攻の大学院生が出演。二重奏で「『魔笛』より 愛を知る男には」(モーツァルト)を皮切りに、ピアノ独奏「『鏡』より道化師の朝の歌」(ラヴェル)、ソプラノ独唱「夕やけ雲」「あわて床屋」「電話」(山田耕筰)、ピアノ連弾「Another world I & II」(柴田育代)、マリンバ・トランペットデュオ「彩風~Ibuki」(山澤洋之)が披露されました。日頃の研究の成果を果敢に発揮した熱演のステージで聴衆を魅了して、それぞれ演奏後には客席から大きな拍手が贈られました。



高圧ガス取扱のための安全講習会(11/20)

11月20日(水)午後1時30分から約1時間、本学自然科学棟生物ゼミナール室で、保健環境センター主催による「高圧ガス(ボンベ)取扱のための安全講習会」を開催しました。今回は、太陽日酸中部支社技術部技術一課の瓦林督弘課長を外部講師としてお招きし、事故災害防止のための4原則の紹介、高圧ガスに関する法規や取り扱うための専用容器の基準、周辺機器とその取扱いに関する安全確保の方法を講演していただきました。

講師からは、学外で起こった最近の事故事例について実際の被害写真や動画等を用いての

説明があり、参加者は驚きとともに学びました。ガス種によるリスクの違い、高圧威力を確認することで、段熱圧縮による熱エネルギーの発生や減圧弁使用の重要性、作業者の作業位置の重要性などを知ることができました。



圧力調整器や容器バルブの開閉や混合ガスの取り扱いなどについていくつかの質疑応答がなされました。本学では、これまでに重篤な事故等は発生しておりませんが、安全衛生巡視等で古いガスボンベが発見されるなどのヒヤリハット事例は何度もありました。最後に榊原から、「大学では、指導教員が授業や会議の都合により実験途中で不在になることがしばしばある」

として、そのような状況で起った他大学の学生事故・ヒヤリハット事例を挙げ、「一人ひとりがガスを使用する実験実習において安全衛生確保に努めてほしい」と述べました。

(保健環境センター 准教授 榊原洋子)

日高小学校児童らが食育に「しょくまるファイブ」活用で文科大臣賞受賞を学長に報告(11/20)

文部科学省から平成 25 年度学校給食表彰を受けた刈谷市立日高小学校の 6 年生 4 人と校長、教諭らが 11 月 20 日（水）に本学を訪れ、松田正久学長に受賞の報告をしました。この賞は学校給食の普及と充実を図るため、優秀な取り組みを実施した学校などに文部科学大臣が「学校給食功労者」として表彰するもの。今年全国で 29 校が選ばれました。日高小学校は 2008 年から本学の西村敬子名誉教授が考案した食育推進キャラクター「しょくまるファイブ」を活用し、バランスの良い食生活を実践指導してきたことが評価されたものです。

生徒たちは、「日高小学校では愛知教育大学から生まれたしょくまるファイブで食育を学んでいます。それが認められ、文部科学大臣賞という素晴らしい賞をいただきました」と報告。

しょくまる応援団長でもある松田学長が「このような賞がもたらしたのは、皆さんが保健委員や給食委員として頑張った努力の結果です。お祝いに応援団が作った本のしおりを全校生徒の皆さんにプレゼントしますので、たくさんの本を読んでください」と激励し、皆で記念撮影をしました。



この後、ケーブルテレビ局、キャッチネットワークのインタビューがあり、「どんな活動をしてきましたか」「受賞の感想は」の質問に、生徒たちは「しょくまるカードを使って楽しく残飯を減らす活動や、学校、幼稚園、保育園でしょくまる劇をやったり、給食の時間にしょくまるの放送をしました」「受賞できて嬉しいです。これからは、しょくまるを刈谷だけでなくもっと多くの地域にも広めていきたい」と抱負を語りました。

(秘書広報課 課長 伊藤純一)

アイルランド文学と音楽の夕べ(11/21)

アイルランドから伝統音楽奏者のマーク・レドモンド氏をお迎えして、外国語教育講座、道木一弘教授主催によるアイルランド大使館後援「アイルランド文学と音楽の夕べ」が、11 月 21 日(木)の午後 3 時から 5 時まで、大学会館・中集会室で開催されました。学生、教職員合わせて 70 人余りが参加しました。

マークさんは、アイルランドの伝統楽器、イリアンパイプスやティンホイッスルを現地から持参し日本各地を回られ、本大学でのイベントが愛知県での最後の演奏とのことでした。

この時期の日本はアイルランドと比べて空気が乾燥しているため、「ホテルのシャワー室に楽器を持ち込んで、蒸気で楽器のコンディシ



ョンを整えた」といった苦勞話を披露。イリアンパイプスの構造、スコットランドのバグパイブとの違い等、興味深い話を織り交ぜながら、道木先生のアイルランド文学の紹介に合わせ、'Danny boy'や'Finnegan's Wake'といった曲を披露してくださいました。



イベントの最後には、実際に楽器に触れたり、マークさんを囲み、手拍子をしたり踊ったりする場面もあり、参加者全員があたかもアイリッシュパブにいるかのように盛り上がり、アイルランド文化にあふれた楽しい「夕べ」となりました。(中等・英語専攻4年 長峯貴幸)

第7回科学・ものづくりフェスタ@愛教大(11/23)

科学やものづくりの楽しさを体験してもらおうイベント「科学・ものづくりフェスタ@愛教大」が11月23日(土)、第一共通棟で開催されました。科学・ものづくり教育センターの主催で今年が7回目。教員、学生、附属高校生、刈谷市立富士松中学校生徒による32のプログラムが実施され、約1,000人の来場者でにぎわいました。



天気にも恵まれ、受付開始の午前9時から親子連れなどが続々と来学。全身がすっぽりシャボン玉に入る体験ができる「一度はやってみたいシャボン玉遊び」は、順番待ちができる人気ぶり。子どもがシャボンに入ったベストショットをカメラに収める姿が見られました。木製パズル、マグネット、顕微鏡、日時計などを作る体験、プラネタリウムや火炎反応、赤青メガネで3D(立体視)などの観測体験など、様々なコーナーを巡ることができ、初めて参加したという親子は「子どもも大人も楽しめるのがいい」と満足そうでした。



恒例のランチタイムレクチャーでは、松田正久学長が「科学する!ことの楽しさ」のテーマで講演。素粒子物理学が専門などと自己紹介しながら、金子みすゞの詩やガリレオの発見を例に、「どうして?と疑問をもつことが大切」と話し、物質の重量によって物が落ちる速度が異なるかなどを自作の装置で実験。



子どもたちが落下の様子を食い入るよう見守りました。

また、フェスタと連動して自然科学棟の天文台では「第87回一般公開」が行われ、昼間は太陽の黒点や金星の観測、望遠鏡のしくみを解説するミニ講座、「3D宇宙の旅」上映会、夕刻には秋の星座やアンドロメダ銀河M31などの観測など、盛りだくさんの内容で参加者を楽しませました。

刈谷アクアモールイルミネーション点灯式(11/23)

刈谷駅前冬の恒例イベント「アクアモールイルミネーション7」の点灯式が11月23日(土)に、駅北口広場で行われ、イルミネーションを制作した美術科の学生や関係者が参加しました。

本学と刈谷市駅前商店街の連携で実施され、今年で8回目。宇納一公特別教授(美術教育)の指導で、美術選修・専攻の1年生が毎年、授業の一環で制作しています。今年は「童話」をテーマに1年生36人と2年~大学院生20人の総勢56人で、夏休みごろから企画し、10月から本格的に制作を開始。「ブ





レーメンの音楽隊」「浦島太郎」「オズの魔法使い」「アラジンと魔法のランプ」の四つの童話のモチーフが彫刻作品になりました。

点灯式で宇納特別教授は「学生たちがいろいろ考えた成果で、皆さんが楽しんでくだされば、(彼らの)大きな励みになります」と挨拶。学生の代表は「初めてのことで、どんな素材で作ればいいのか分からず大変でしたが、皆さんに楽しんでもらえるように一生懸命作りました」と笑顔で語りました。松田正久学長も「愛教大は教員養成だけでなく、この刈谷、愛知で存在感のある大学として、いろんな所で地域と連携して頑張っています」

と話し、学生たちと声をそろえて「愛教大がんばるぞー！」と氣勢を上げて、式を盛り上げました。

関係者の祝辞の後、カウントダウンでスイッチが押され、色とりどりのライトが一斉に点灯し、温かな光が通りを照らし出しました。来年1月17日まで点灯されます。



第58回東海地区国立大学文化祭(11/23、24)

11月23日(土)、24日(日)に「第58回東海地区国立大学文化祭」が三重県総合文化センター、津市の津リージョンプラザを会場に開催されました。今年度は三重大学が当番校となり東海地区の8国立大学(三重、静岡、名古屋、岐阜、浜松医科、名古屋工業、豊橋技術科学、愛知教育)が演劇部門(演劇・ミュージカル・踊り・奇術)、美術部門(絵画・写真・手芸)、音楽部門(バンド・合唱・合奏)の3部門に参加しました。

本学からは6団体が参加し、演劇部門では『ミュージカルサークル ミュリム』が初参加。広い舞台を隅から隅まで使用し、バックで管弦楽器の楽団が演奏をし、前面では大人数によるミュージカルの演技で、館内に響き渡る迫力ある歌声や華やかな衣装を着た学生に観客は皆魅了されていました。美術部門では昨年も参加した『手芸サークル



CRAFT』が唯一手芸作品を展示し、今年も豊かな表現力で来場者の目を楽しませました。音楽部門では1日目に毎年常連の『軽音楽部』『フォークソング部』、昨年に続いて2度目の出場となった『音楽サークルSPOON』のバンドと、2日目に『アカペラサークルPremier』の合唱があり、日頃の練習成果を精いっぱい発揮しました。他大学では、毎年参加しているプロ並みの演奏をしている団体や初参加で初々しい演奏をしている団体もあり、文化祭

を盛り上げていました。

初日に高速道路の事故の影響により、開始時間が多少遅れましたが、各参加団体はそれぞれの表現を通して充実した時間を過ごしていました。来年度の開催は次期当番大学である静岡大学に引き継がれ、静岡にて開催される予定です。

(学生支援課 課外教育担当係 亀山重人)



第3回陶芸カフェ(11/24)

11月24日(日)午後2時から5時まで、表記の催しが開催されました。これは現代学芸課程造形文化コースで学ぶ3、4年生が主体となり2年前から始まり、第1回以来、筆者は参加しています。このカフェは、大学が行うアカデミックカフェを参考に始まったもので、参加者が作ったマグを持ち寄り、参加者全員で器を交換、その器でコーヒーを飲むという催し。卒業生も全国から参加、遠くは栃木県から。また、中島晴美教授の多治見市陶磁器意匠研究所時代の教え子たちも多数参加、既に作家として数々の賞を受賞している著名な方々ばかり。また陶芸の仲間である板橋廣美金沢美術工芸大学教授も金沢から参加。催し自体は、全て学生が運営、陶芸室委員長岩田結菜さん、陶芸カフェ代表梶野有香さんを主体に進められました。



マグ交換の催しに先立ち、1時間の講演があり、今年が多治見市文化工房ギャラリーヴォイスの川上智子氏による「陶芸師列伝」の講演でした。私は、所用で講演には参加できませんでしたが、毎日新聞の安間教雄記者は最初から参加され、この催しがいたく気に入った様子で、川上さんに質問攻め。



講演が終わると、マグの交換会。陶芸作家の方々が順番に、気に入った作品を選んでいきます。ただし、誰の作品か自明のものは選ばないというのがルール。各作家の作品にはそれぞれ個性があるのでお互いどれかは、分かるからです。面白いことに学生の作品で選ばれるのは、3年生と大学院生の作品。4年生の作品が選ばれないのが不思議といえば不思議なのですが、その理由が中島教授には分かっているのもまた不思議。素人の私には分からないのですが、2年の陶芸経験を経て、機能性か芸術性かそれが中途半端になったり、奇をてらったりするからでしょうか。これが大学院となればまた選ばれるようになるのですから、面白いものです。

交換会終了後は、中島教授持参の栗きんとんを食べながら、学生が立ててくれた抹茶をいただく、その中での芸術家の方々との語らいが、心とませてくれました。学生の保護者の方々も今年の催しから参加、総勢60~70人の陶芸カフェは大成功でした。



(学長 松田正久)

永年勤続者表彰式(11/25)

2013年度の永年勤続者表彰式が、11月25日(月)午前10時30分から第五会議室で行われました。今年度の対象者は、浜寄通世准教授(外国語教育)樋口一成教授(美術教育)鷹巣純教授(同)川瀬康弘係長(教務課)の計4人。

表彰式には、そのうち3人が出席し、一人ひとりに松田正久学長から感謝状と記念品が手渡されました。松田学長は、20年前のバブル崩壊頃の総合科学課程に関わる本学の状況、被表彰者の研究の紹介および職員との思い出を交えて、20年の長きにわたる功績に対する感謝を述べ、「今後もさらに頑張りたい」との言葉であいさつを締めくくりました。



これを受けて、永年勤続者を代表して樋口教授が「この場を設けていただき、感謝いたします。20年前は少しゆっくりとした時代でしたが、今は大変厳しい状況にある。この間、大学のためどれだけ貢献できたは分かりませんが、今後もゴールまで微力ながら大学のために一生懸命尽くしたい」と感謝の言葉と共に、新たな決意が述べられました。

式の後には、出席者全員による記念撮影が行われました。

(人事労務課 福祉担当係長 原田一三)

招へい教職員による講演会(11/26)

11月26日(火)、本学国際交流センターは「協定校からの招へい教職員による講演会(第二回)」を開催、インドネシア・国立スラバヤ大学講師のJoko Prasetyo先生と台湾・台北教育大学事務職員の陳怡君氏が講師を務め、松田正久学長をはじめとする多くの教職員、留学生を含む学生が聴衆として参加しました。



国際交流担当の事務職員である陳氏は、台北教育大学における国際交流活動、特に協定校との間で実施している交換留学プログラムについて、数的データや実際の募集要項を参考にしながら概要の説明を行いました。

日本語教育を専門とするJoko先生の講演テーマは、「非漢字系の漢字学習」。日本語教育大国インドネシアにおける日本語教育の現状について、スラバヤ大学の例を挙げて紹介したほか、本学留学生を対象に行ったアンケート調査の結果を基に、非漢字系の漢字学習者の学習ストラテジーについても詳しく解説を行いました。

参加者は両氏の講演に終始熱心に聴き入り、終了後には、日本語学習者である留学生から自身の学習経験に基づく質問が寄せられるなど、活発な質疑応答も行われました。

12月中旬には、中国と台湾からの招へい教職員を講師に招き、第3回の講演会を開催する予定です。多くの教職員、学生の皆さんの参加をお待ちしています。

(教育創造開発機構運営課 国際交流担当 宮内春菜)



文化系クラブ・サークル発表会(11/27)



文化系クラブ・サークル発表会が11月27日(水)午後零時30分から附属図書館アイ♥スペースで行われ、本学アカペラサークル「Primer(プリミエ)」が、学生や教職員約50人を前にパフォーマンスを披露しました。

この催しは、日頃活躍している学生の発表の場をと企画され、この日は第1回。同サークルは、10月26日の保護者会で発表の予定だったものの、あいにく台風のために行事が中止になり、その代わりの場をと学生支援課の提案で実現しました。この日は、同サークルから2ユニットが出演。1年生男女6人の「Gustare」は、黄色と白でそろえた衣装で登場し、「トトロ」「青いベンチ」「星のかけらを探しにいこう」の3曲を披露し、2年生女子5人組の「古娘。」は、「UFO」「夢いっぱい」「キャンディ・キャンディ」など5曲を、優しいハーモニーで歌い上げました。客席から手拍子が起こって、会場は温かな空気に包まれました。



出演した学生は「保護者会のために練習をしたので、中止になって残念でしたが、こういう機会を設けていただけてありがたいです。楽しかったです」と満足そうでした。

個人情報保護・情報セキュリティーセミナー(11/27)

11月27日(水)13時30分から、情報処理センター第1教育用コンピュータ室で、個人情報保

護・情報セキュリティセミナーが開催され、本学の職員・学生のほか、他大学の職員の方も含め 55 人が参加しました。

講師には、NTT 西日本クラウドソリューション部セキュリティサービスグループの京奥将貴主査をお迎えし、「情報セキュリティセミナー・ICT 環境を取り巻く様々なリスクと情報漏えい事例対策」のテーマで講演いただきました。

守るべき情報とは何か？情報セキュリティとは何か？から始まり、情報セキュリティの脅威、情報の価値、NTT 西日本の対策の実践例について分かりやすく説明していただき、大変参考となりました。また、タブレット端末のデモンストレーションもあり、オンラインゲームアプリを使用しただけでデータが盗み取られる手口が紹介され、身近な危険性についても知ることができました。



最後に「情報セキュリティは、面倒くさく、儲からないもの、お金がかかるもの、距離感が必要ではありますが、そこに改善のチャンスがあり、経営・業務効率を上げることができる」とまとめられました。情報セキュリティの必要性・重要性について認識することができました。

(情報図書課 情報化推進室長 伊藤秀夫)

お知らせ・報告・投稿

地域連携フォーラム 2013(報告)

11 月 9 日 (土) 午後 1 時から本学大学会館で「地域連携フォーラム 2013」が開催されました。今年度は、学生の地域貢献活動を中心として、NPO や企業の話も合わせて伺い、本学の地域との連携活動のあり方を展望することを趣旨として行われ、約 40 人が参加しました。

学生の活動については、子ども向け人形サークル「じゃんけんぼん」の加藤美有さん、マジックサークル「Shuffle」の小林正和さん、手話サークル「くるくる」の安木梓さんと内田ちはるさん、そして音楽ボランティア団体「輪音」の畑中みどりさんに報告をしてもらいました。いずれも特技などを生かし多くの人の為になる活動を行ってお



り感心させられました。また合間に、三線サークル「てんつく」の長谷川裕紀さんに三線演奏も披露していただきました。

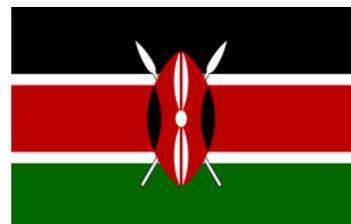
NPO の活動は、「スペシャルオリンピックス(SO)日本・愛知」の専務理事の近藤義明さん、企業の貢献活動は元トヨタボランティアセンター長の鈴木盈宏さんに話をしていただき、様々な貢献の在り方を知ることができました。

報告後は、発表者の方々と本学教員によるパネルディスカッションを行い、学生の貢献活動をいかにサポートできるかを中心に有意義な討論がなされました。今後の本学の地域貢献活動の一翼を担う学生の活動支援の重要性を再認識する良い機会となりました。

(保健体育講座 教授 鈴木英樹)

グローバル授業「ケニアの生活と文化」(報告)

11 月 12 日 (火)、本年度後期第 1 回のグローバル授業が開催されました。授業では毎回留学生が自分の国・地域の文化、社会、伝統、言語などを写真や動画を使ったプレゼンテーションで紹介しています。今回は、ケニアからの教員研修留学生のサミエル・ムアンギさんが担当しました。



「ケニアの国旗の黒は国、赤は独立のために流れた血、緑は豊かな自然を表しています。中央にあるのはマサイ族の盾と槍です。マサイ族はライオン狩りをする世界最強の民族」と説明。サミエルさんはこの日マサイ族の象徴である赤の民族衣装で登場しました。ケニアには50ほどの民族がいて、サミエルさんはキクユ族だそうです。また、ケニアはアメリカのオバマ大統領の故郷です。オバマ大統領の親戚の家が写真で紹介され、参加者は興味深く見入っていました。自然、動物、料理等、盛りだくさんで、あっという間に時間が過ぎてしまいました。参加者からはいろいろな質問が出ていました。

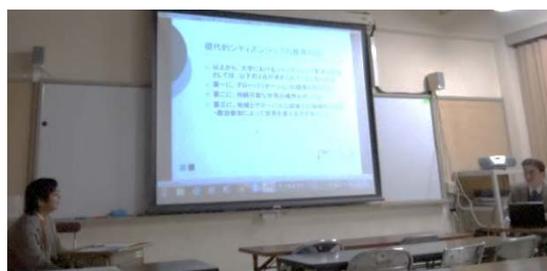


なお、グローバル授業は今回からランチタイム(12:30-13:00)に行っています。昼食持参で、皆様のご参加をお待ちしております。
(日本語教育講座 教授 稲葉みどり)

2013年度第3回リベラルアーツEduセミナー(報告)

11月15日(金)に、「2013年度第3回リベラル・アーツEduセミナー」が、「グローバル時代のシティズンシップ教育について—哲学的観点から—」をテーマに開催されました。リベラル・アーツプロジェクト教員である大澤秀介教授(社会科教育講座)が、大学におけるグローバル時代のシティズンシップ教育に必要な三つのポイント、①現代世界の正確な認識②持続可能な世界へのビジョン③社会に参加し変えていく力の養成—について講演されました。

まず、①について、シティズンシップの概念に変容をもたらす原因となった「グローバル化」の事実として、生産拠点の途上国への移転に伴う労働市場の激変、巨大なグローバル資本のタックス・ヘイブン等による利潤の追求、環境規制の差異を利用することによる他国の廃棄物処理場化などの事例が紹介されました。次に、変容された「シティズンシップ」においては、国民国家の弱体化に伴って「政治的要素」(参政権)の実質が変化し、シティズンシップの「社会的要素」(福祉受益権)が徐々に削減され、「市民的要素」(自由権)だけが残ること、また、一部の富裕層のみがこれを最大限行使して経済的格差が広がっていることが述べられました。最後に、②と③について、このような現実に対して市民がなすべきこととして、地域での積極的な社会・政治参加によって世界を変える力を持つことの重要性が指摘されました。



議論では、地域の中核となる人材を育成する本学の文脈に適合したシティズンシップ教育の必要性が指摘されるなど、シティズンシップ教育の在り方について理解を深める場となりました。

(教育創造開発機構大学教育研究センター リベラル・アーツ教育部門研究員 久保田祐歌)

催しもの案内

◆愛知教育大学創基140周年記念講演会

12月4日(水) 13:30~15:00

愛知教育大学講堂ホール

テーマ:「これからの教育と科学と語る」

講師:益川敏英博士(2008年度ノーベル物理学賞受賞者,京都大学宇宙起源研究機構長)

内容:益川博士と本学の松田正久学長の対談形式による講演会。学生諸君へ「学びに対する意識」と「将来に向けた役割」についてのメッセージを発信。

対象:本学学生・附属高校生・教職員および一般の方

参加費:無料

申込方法:会場準備の都合により、「事前申し込み」。(定員1,000人、先着順)

申込先:E-mail:140kinen@m.auecc.aichi-edu.ac.jp

Fax : 0 5 6 6 ・ 2 6 ・ 2 1 7 0

(ファクスの場合、申込書は下記ホームページから印刷

ください。 <http://www.aichi-edu.ac.jp/>)

問い合わせ：学生支援課 吉田 TEL 0 5 6 6 ・ 2 6 ・ 2 1 7 2

- ◆愛知教育大学創基140周年記念展示～師範学校期から刈谷市統合移転まで～（再展示）
11月29日（金）～12月9日（月）9：00～22：00（土日祝は11：00～17：00）入場無料
附属図書館 アイ♥スペース
本学の創基140周年を記念して、師範学校期から現在までを、写真パネルや資料で紹介。
問い合わせ：附属図書館 TEL 0 5 6 6 ・ 2 6 ・ 2 6 8 1
<http://www.auelib.aichi-edu.ac.jp/>

- ◆ボールステイト大学訪問調査報告会
12月13日（金）16：40～18：10
第一共通棟303教室
本学教職大学院教員、事務職員による国際交流協定締結校ボールステイト大学（米国・インディアナ州）訪問調査の報告会。
内容：①同大学の組織と運営②大学院（MA, EdD, PhD）のプログラム③事務組織の運営
④バリス校、アカデミー視察⑤コミュニティースクール視察
問い合わせ：教務課 小笠原さん TEL 0 5 6 6 ・ 2 6 ・ 2 6 7 9

- ◆学生の地域貢献活動紹介パネル展
12月12日（木）～25日（水）9：00～22：00（土日祝は11：00～17：00）
附属図書館 アイ♥スペース
問い合わせ：附属図書館 TEL 0 5 6 6 ・ 2 6 ・ 2 6 8 1
<http://www.auelib.aichi-edu.ac.jp/>

- ◆愛知教育大学天文台 第88回一般公開
12月14日（土）19：00～22：00 入場無料・予約不要
自然科学棟 5階538室、屋上「天文台」
19：00～ミニ天文講座「再び、流星群ってなに？」講師・澤武文特別教授
20：00～観望会「ふたご座流星群観望会」※防寒具を持参してください。
問い合わせ：理科教育講座 天文学研究室
TEL 0 5 6 6 ・ 2 6 ・ 2 6 2 4
<http://www.phyas.aichi-edu.ac.jp/~tenmon/>

- ◆第37回冬の子どもまつり
12月15日（日）9：00～15：00
第一共通棟、第一・第二体育館など
子どもまつり実行委員会主催。「魔法のミニゲーム」「お化けの家ミニゲーム」、子まつりキャラクターとのダンス、スタンプラリー、巨大ぬりえ、人形劇、紙芝居など、学生企画のゲームや遊び、ものづくり体験を実施。
問い合わせ：子どもまつり実行委員会
http://www.aichi-edu.ac.jp/gakusei/kodomo_fes/

- ◆ミュージカルサークル「ミュリム」公演「ME AND MY GIRL」
12月15日（日）15：30会場、16：00開演 入場無料
尾張旭市文化会館
音楽選修・専攻1、2年有志による公演。宝塚歌劇団のミュージカル作品より、1930年代のイギリス・ロンドンを舞台にした物語を上演。

問い合わせ：ミュリム 多久島さん

E-mail：muream.2013@gmail.com

編集後記

秋冬恒例のイベント「秋祭」「科学・ものづくりフェスタ」が無事終了して、残すは12月15日の「子どもまつり」。春と冬の2回行われる子どもまつり（通称・子まつり）ですが、どちらかという冬は規模は小さめですが、それでも昨年は600人の子どもたちでにぎわいました。今回も実行委員たちは半年余りかけて企画を立てて、会場の大道具・小道具の作成、安全・安心な運営のための計画づくりなど周到に準備を進めてきました。それだけに、他には真似のできない本学ならではのイベント。37回目もキャンパスが元気な子どもと学生たちでいっぱいになるのを楽しみにしています。（K）

投稿のお願い

学内外の出来事（教育・研究・地域連携・国際交流・学内事業など）に関するニュースの提供をお待ちしております。

メール：kouhou@m.auecc.aichi-edu.ac.jp 編集責任者：総務担当理事 折出 健二